

【第三社説欄付録】

経済教室

ポイント

- ・ ネット情報の意味内容を分析する研究進む
- ・ 米企業は情報検索を意思決定に生かす工夫
- ・ 日本は各界の情報収集への取り組み不十分

松尾 豊 東京大学准教授

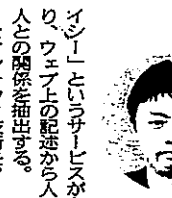
インターネット上のツイッターや交流サイト(SNS)などソーシャルメディアが注目されている。ユーザー数が着実に増え、多くの人からリアルタイムの情報を発信している。ツイッターは中東・北アフリカの動乱で重要なメディアとなった。東日本大震災でも多くの人々が利用し、電話が通じなくなるとネット上が通信の要所となった。ソーシャルメディアを通じて友人と連絡をとった人も多い。一方で、震災時にはネット上で様々な噂やデマが飛び交

震災とネットの役割①

ウェブ情報、分析力高めよ

い、その内容が正確に確認されないままに流布される現象が多々みられた。本来、情報の正確性や信頼性を担保して適切に噂やデマを防止する手段があればよいのだが、技術的に難しい。

情報の意味内容をコンピュータが把握する技術は「セマンティック技術」と呼ばれる。以前から研究が進んでい



松尾豊氏
「セマンティック技術」によるウェブ情報の分析力が高められ、震災時にはツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアが重要な役割を果たしている。

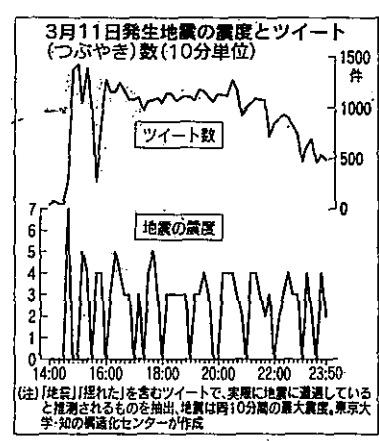
国に必要だが、多くの人がウェブに情報を発信し、それがセマンティック技術によるウェブ情報の分析力が高められ、震災時にはツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアが重要な役割を果たしている。

国の意思決定も左右

言語の壁、日本は対応遅れ

入国の際に発生する外国人の被害は、国境を越えて広がる。インターネットが普及したことで、海外からの悪質な情報発信も増加している。また、インターネットを通じて、国内の地域間での情報格差も拡大している。

「ウェブ情報」が様々な社会問題に活用されている。例えば、震災時には、被災地の状況をリアルタイムで共有し、救援物資の届く場所や必要な物資の種類を把握するのに活用された。



「ウェブ情報」が様々な社会問題に活用されている。例えば、震災時には、被災地の状況をリアルタイムで共有し、救援物資の届く場所や必要な物資の種類を把握するのに活用された。

「ウェブ情報」が様々な社会問題に活用されている。例えば、震災時には、被災地の状況をリアルタイムで共有し、救援物資の届く場所や必要な物資の種類を把握するのに活用された。

「ウェブ情報」が様々な社会問題に活用されている。例えば、震災時には、被災地の状況をリアルタイムで共有し、救援物資の届く場所や必要な物資の種類を把握するのに活用された。

まっちゃん、ゆたか、75年生まれの東京大博士(工学)です。専門はウェブ工学、人工知能